

Ⅱ. 概要

1. はじめに

霊長類研究所の概要を述べるにあたって、その沿革から紹介する。

霊長類研究所は、霊長類に関する総合的研究をおこなう目的で、全国の研究者の共同利用研究所として、昭和42年6月1日、京都大学に附置・設立された。京都大学に13ある附置研究所のひとつであり、国内に41ある「全国共同利用研究所」のひとつである。

創立以来42年間にわたって、人間を含めた霊長類の生物学的特性の研究で多くの研究成果をあげてきた。平成21年4月1日現在、本研究所には4つの研究部門（10分野）と、2つの附属研究施設がある。教員数は約40名、大学院生等も約40名である。更に、海外での学術調査や外国人研究者の来訪も多く、活発な国際交流がおこなわれている。

以下に、創設以後の歴史の概要を記す。昭和43年に、現在の犬山市官林のキャンパスに研究棟第1期工事が完了した。以後、第2期工事、共同利用研究員宿泊棟、犬山市塔野地の職員宿舍、宮崎県串間市の幸島野外観察施設の研究棟などの竣工をへて、昭和44年6月2日に霊長類研究所の開所式がおこなわれた。また共同利用研究は、昭和44年8月1日より開始された。昭和47年には、キャンパス西側に隣接した1.3ヘクタールの土地を購入し、サル類保健飼育管理施設の本棟、検疫棟、放飼実験場などを建設した。昭和52年、本館の第4期工事によって、当初構想していた研究棟が完成した。昭和55年には、実験用サルの繁殖コロニーと育成舎が竣工し、サル類の自家繁殖体制が整備された。また、昭和58年には、従来の幸島野外観察施設をニホンザル野外観察施設へと改組拡充し、当初構想の9研究部門に加えて、2附属研究施設の体制となった。

平成5年4月に、創立以来はじめて、研究部門の改組をおこなった。従来の伝統的な学問区分から抜け出し、新たな対象を掲げ複合的な視点をもった研究体制に整備することをめざした。大部門化改組によって、従来の9研究部門を4大部門10分野に再編統合した。これによって、チンパンジー研究の推進の核として新たに思考言語分野が誕生した。時を同じくして、平成7年3月に、本棟（研究棟）の東側に隣接して類人猿行動実験研究棟（新棟）が建設され、チンパンジー研究をはじめとする多様な研究基盤が強化された。平成11年4月には、新しい研究用サル類の創出・育成をめざして、サル類保健

飼育管理施設を改組し、「人類進化モデル研究センター」を新たに発足させた。当初、外国人教員を含む4つの研究領域をたて、配置教員の増員もかない、従来の飼育管理運営の業務に加えて研究面についても充実をはかった。

平成19年6月に、霊長類研究所は創立40周年を迎えた。同年、第一キャンパスの東に位置する第2キャンパス（総面積約76ヘクタール）を整備して、その南部の約10ヘクタールにリサーチ・リソース・ステーション（RRS）を開所した。第一段階としてニホンザルを対象に、順次、新世代の研究用霊長類の繁殖育成をはかる研究基盤整備の事業である。

この創立40年の節目の年に、本棟の耐震改修と機能向上のための工事をおこなった。地上5階、地下1階、全216室がすべて退去するという大工事だったが、所員各位の協力があつて、平成20年3月に無事に竣工した。同年4月には、ニホンザル野外観察施設を廃止し、霊長類研究所が母体となって、「野生動物研究センター」という新しい部局が京都大学に誕生した。霊長類以外の野生動物を研究の視野にいれて、人間を含めた自然のありかたや、地球社会の調和ある共存を探る研究をおこなう研究教育組織である。

さらにこれを受けて、平成21年4月に、霊長類研究所は「国際共同先端研究センター（CICASP）」を新たに設置した。背景としては、1953年以来55年間続いた「全国共同利用」という制度が平成21年度末で終了することが決まっている。平成22年度からは「共同利用・共同研究拠点」という新制度が発足する。そうした新たな拠点制度への移行を視野に入れて、霊長類研究所が真に国際研究所として機能するためのセンターである。

研究と並行して、大学院教育をおこなっている。霊長類研究所がおこなう大学院教育は、理学研究科動物学専攻の1分科として昭和47年に発足した。昭和61年には、霊長類学専攻として専攻独立を果たした。その後、平成5年の大学院重点化改組を受けて、理学研究科の協力講座と位置づけられて、生物科学専攻のなかの霊長類学系となった。なお平成20年度からは、野生動物研究センターが発足したのを受けて、これと協力して、「霊長類学・野生動物系」と名称を変更して後進の育成に努めている。

本年報の発行にあたって、平成20年度の教員の交代について述べる。年度当初に江木直子（系統発生分野）が助教として赴任した。年度途中に、香田啓貴助教（認知学習分野）、古賀章彦教授（ゲノム多様性分野）、林美里助教（思考言語分野）、辻大和助教（社会進化分野）、

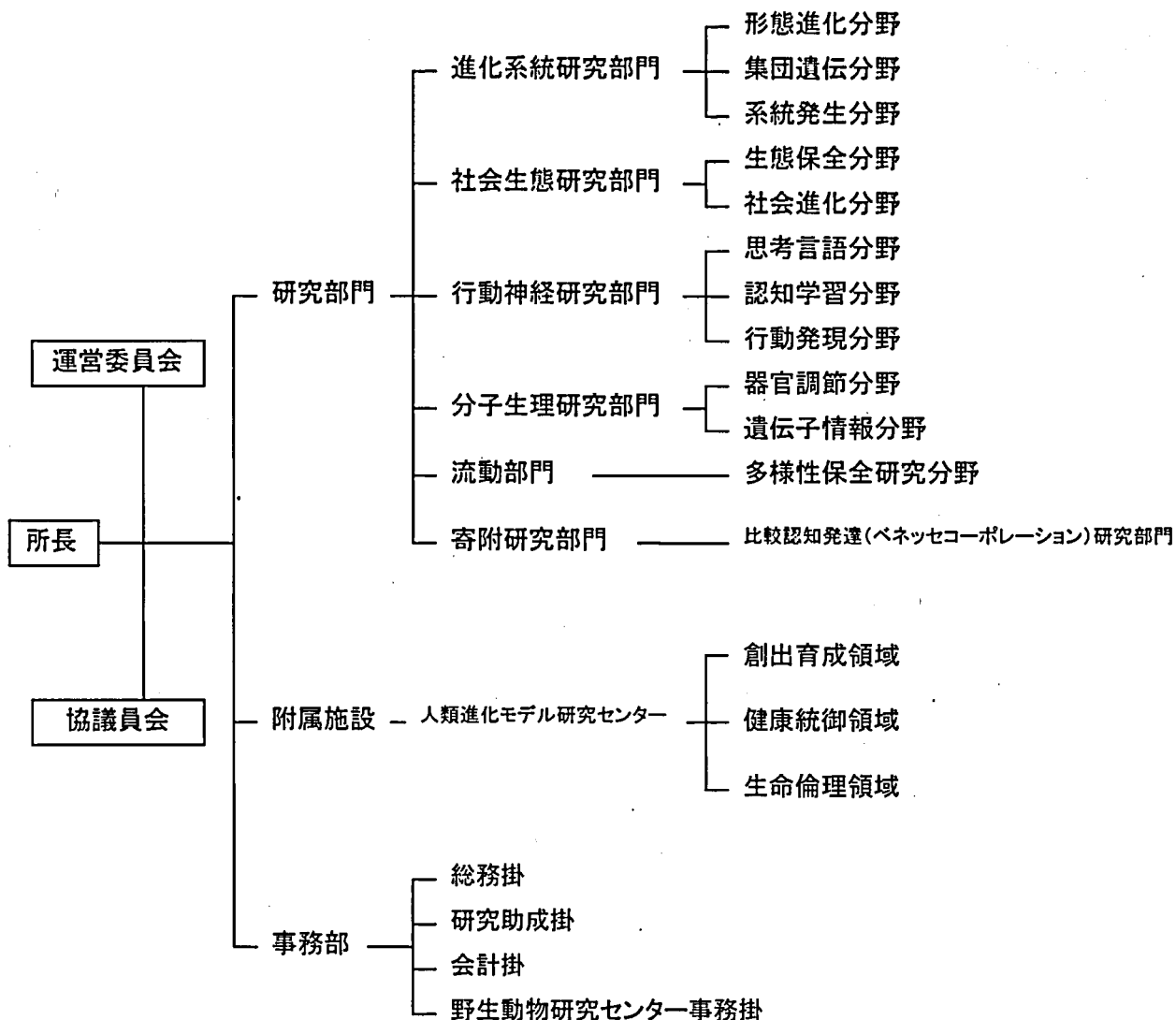
足立幾磨特定助教（思考言語分野）が新たに赴任し、濱田穰（進化形態分野）が教授に昇任した。一方、平成20年度末に、2人の教員が定年退職を迎えた。林基治教授、三上章允教授である。入れ替わりに、新たに3教授が平成21年度当初から赴任した。高田昌彦教授（統合脳システム分野）、中村克樹教授（高次脳機能分野）、明里宏文教授（人類進化モデル研究センター・比較免疫微生物領域）である。なお、技術職員の南雲純治が定年退職を迎え、国際共同先端研究センターに再雇用された。いわゆる団塊の世代の退職の時期を迎えて、近年、研究所の教職員構成の変化が著しい。フレッシュなメンバーの加入によって、霊長類学は更なる発展を遂げるだろう。

変わるべくして変わるものがある。その一方で、研究所の不易の指針を堅持したい。すなわち、霊長類研究所が志向するところは、人間を含めた霊長類に関する学術的研究を通じて、「人間とは何か」「人間はどこからきたのか」という問いに答えるべく、人間の本性とその進化的起源を解明することである。先人の積み上げてきた成果を基礎に、さらなる研究と教育と社会貢献を期して、所員一同が努力を続けている。

（文責：松沢哲郎）

2. 組織

(1) 組織の概要 (2009年3月31日現在)



所長	松 沢 哲 郎	
運営委員	諏 訪 元	(東京大学総合研究博物館 教授)
(順不同)	長谷川 壽一	(東京大学大学院総合文化研究科 教授)
	高畑 由起夫	(関西学院大学総合政策学部 教授)
	山 極 壽 一	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	松 林 公 蔵	(京都大学東南アジア研究所 教授)
	阿 形 清 和	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	中 道 正 之	(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
	伊 佐 正	(生理学研究所 教授)
	入 来 篤 史	(理化学研究所 グループディレクター)
	颯 田 葉 子	(総合研究大学院大学 教授)
	景 山 節	(京都大学霊長類研究所 教授)
	林 基 治	(京都大学霊長類研究所 教授)
事務長	小 倉 一 夫	

職員の内訳

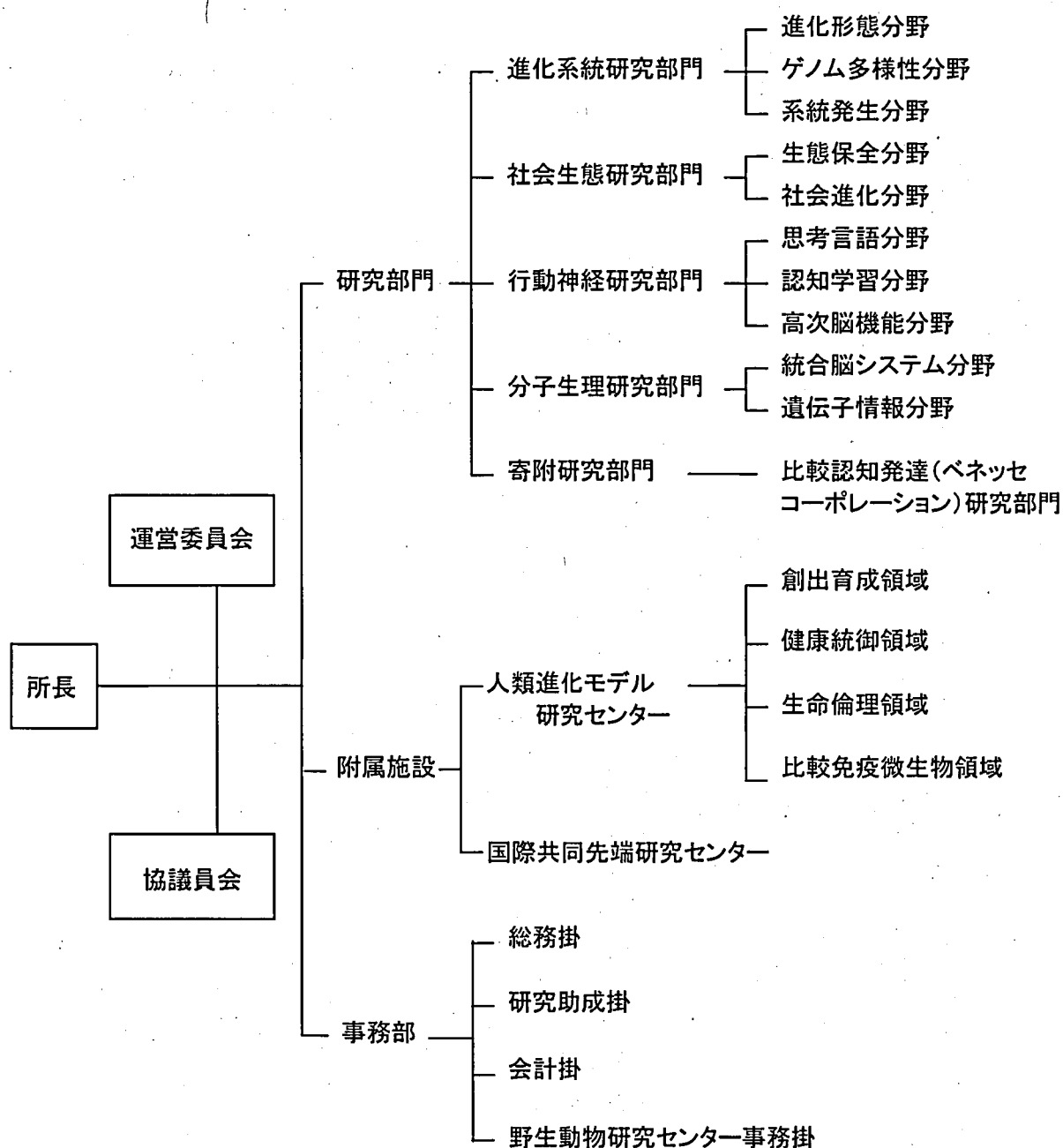
教授	准教授	助教	事務職員	技術職員	小計	非常勤(時間)	合計
12	11	12	8	10	53	76	129

大学院生・研究者等の内訳

博士課程	修士課程	外国人共同研究者	特別研究員(PD)	リサーチレジデント	受託研究員	合計
29	11	4	5	1	2	52

霊長類研究所組織図

平成21年4月1日現在



(2) 所員一覧 (2008 年度)

形態進化分野 Fax:0568-61-5775

濱田 穰	教授
毛利 俊雄	助教
國松 豊	助教
早川 清治	技術職員
山本 亜由美	教務補佐員
水谷 典子	事務補佐員
権田 絵里	大学院生

集団遺伝分野 Fax:0568-62-9554

古賀 章彦	教授
川本 芳	准教授
田中 洋之	助教
川本 咲江	技能補佐員
澤村 育栄	事務補佐員
川合 静	大学院生
齊藤 梓	大学院生

系統発生分野 Fax:0568-63-0536

高井 正成	教授
西村 剛	准教授
江木 直子	助教
荻野 慎太郎	教務補佐員
片岡 敦子	事務補佐員
伊藤 毅	大学院生
ZIN MAUNG MAUNG THEIN	大学院生
西岡 佑一郎	大学院生

生態保全分野 Fax:0568-63-0564

渡邊 邦夫	教授
半谷 吾郎	准教授
橋本 千絵	助教
松原 幹	教務補佐員
村井 勅裕	教務補佐員
大井 由里	事務補佐員
JACOBS Armand, Thomas	外国人共同研究者
RIZALDI	外国人共同研究者
江成 広斗	学振特別研究員
澤田 晶子	大学院生
鈴木 真理子	大学院生
Zhang, Peng	大学院生
原澤 牧子	大学院生
松岡 絵里子	大学院生
山田 彩	大学院生

社会進化分野 Fax:0568-63-0565

古市 剛史	教授
Huffman, Michael, Alan	准教授

辻 大和	助教
広瀬 しのぶ	事務補佐員
GARCIA CECILE MARIE CLAIRE	外国人共同研究者
HERNANDEZ ALEXANDER DANNY	外国人共同研究者
LECA JEAN BAPTISTE	外国人共同研究者
神田 恵	大学院生
郷 もえ	大学院生
JAMAN Mohammad Firoj	大学院生
NAIALLAGE, CHARMALIE ANURADHIE DONA	大学院生
MACINTOSH, ANDREW JAMES JONATHAN	大学院生

思考言語分野 Fax:0568-62-2428

松沢 哲郎	教授
友永 雅己	准教授
林 美里	助教
足立 幾磨	特定助教 (特別推進研究)
金子 陽子	技術補佐員
堀 鈴香	技術補佐員
井上 紗奈	教務補佐員
打越 万喜子	教務補佐員
大橋 岳	教務補佐員
中島 麻衣	教務補佐員
廣澤 麻里	教務補佐員
奥村 由香利	事務補佐員
酒井 道子	事務補佐員
大平 知美	研究員 (産官学連携)
GRANIER NICOLAS JEAN MARIE	外国人共同研究者
伊村 知子	学振特別研究員
服部 裕子	学振特別研究員
小倉 匡俊	大学院生
兼子 峰明	大学院生
狩野 文浩	大学院生
佐藤 義明	大学院生
MARTIN, CHRISTOPHER	大学院生
山梨 裕美	大学院生
山本 真也	大学院生

認知学習分野 Fax:0568-62-9552

正高 信男	教授
松井 智子	准教授
香田 啓貴	助教
南雲 純治	技術職員
新谷 さとみ	技術補佐員
加藤 朱美	技術補佐員
渡邊 直子	技能補佐員
早川 祥子	研究員 (グローバル COE)
柴崎 全弘	研究員 (研究機関)
親川 千紗子	学振特別研究員

伊藤 祐康	大学院生
小林 良子	大学院生
澤田 玲子	大学院生
橋本 亜井	大学院生
平石 博敏	大学院生
福島 美和	大学院生
三浦 優生	大学院生
山口 智恵子	大学院生

行動発現分野 Fax:0568-63-0563

三上 章允	教授
宮地 重弘	准教授
脇田 真清	助教
猿渡 正則	教務補佐員
鈴木 冬華	事務補佐員
井上 雅仁	研究員(研究機関)
WIDAYATI KANTHI ARUM	外国人共同研究者
額額 大輔	学振特別研究員
石川 直樹	大学院生
小野 敬治	大学院生
鴻池 菜保	大学院生
酒井 朋子	大学院生
裨占 雅史	大学院生
半田 高史	大学院生
平井 大地	大学院生

器官調節分野 Fax:0568-63-0416

林 基治	教授
大石 高生	准教授
國枝 匠	技術補佐員
金武 ひろみ	事務補佐員
託見 健	大学院生
檜垣 小百合	大学院生

遺伝子情報分野 Fax:0568-62-9557

平井 啓久	教授
今井 啓雄	准教授
中村 伸	助教
平井 百合子	技能補佐員
光永 総子	教務補佐員
宮田 正代	事務補佐員
松井 淳	研究員(グローバルCOE)
菅原 亨	研究員(研究機関)
上岩 美幸	リサーチレジデント
永友 寛一郎	受託研究員
細川 和也	受託研究員
渡邊 正孝	学外非常勤講師
田中 美希子	大学院生

比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門

佐藤 弥	寄附研究部門准教授
高島 友子	技術補佐員
伊藤 康世	教務補佐員

人類進化モデル研究センター Fax:0568-62-9559

景山 節	教授
松林 清明	教授
鈴木 樹理	准教授
宮部 貴子	助教
熊崎 清則	技術職員
阿部 政光	技術職員
釜中 慶朗	技術職員
前田 典彦	技術職員
渡邊 朗野	技術職員
森本 真弓	技術職員
兼子 明久	技術職員
渡邊 祥平	技術職員
安江 美雪	技術補佐員
伊藤 和子	技能補佐員
江口 聖子	技能補佐員
兼松 璃々子	技能補佐員
佐々木 花子	技能補佐員
朱宮 幸子	技能補佐員
須田 直子	技能補佐員
高瀬 こがみ	技能補佐員
立木 昌子	技能補佐員
津川 則子	技能補佐員
中川 千枝美	技能補佐員
古橋 保志	技能補佐員
山田 宜世子	技能補佐員
横江 実穂子	技能補佐員
吉田 美千子	技能補佐員
熊谷 かつ江	教務補佐員
西脇 弘樹	教務補佐員
廣川 類	教務補佐員
猪飼 良子	研究支援推進員
梅田 せつ子	研究支援推進員
尾鷲 享子	研究支援推進員
小林 陽子	研究支援推進員
近藤 ひろ子	研究支援推進員
葉栗 和枝	研究支援推進員
堀内 ゆかり	研究支援推進員
森山 トシ子	研究支援推進員
山根 若葉	研究支援推進員
木村 俊治	労務補佐員

事務局 Fax:0568-63-0085

小倉 一夫	事務長
-------	-----

総務掛

細川 明宏	掛長
田中 雄三	事務職員
大藪 陽子	事務補佐員
後藤 知子	事務補佐員
菅原 喜美子	事務補佐員
松澤 美津子	事務補佐員

研究助成掛

新野 正人	掛長
上川 憲史	主任
小川 幸枝	事務補佐員
原田 重代	事務補佐員
大津賀 幹子	派遣職員
図書室	
高井 一恵	事務職員
池田 早苗	事務補佐員
斎藤 千代子	事務補佐員
宿泊棟	
安東 和子	労務補佐員
佐々木 啓子	労務補佐員
多目的ホール	
敷島 美香	労務補佐員
畑 美千代	労務補佐員
日比野 恵美子	労務補佐員
大須賀 美恵	派遣職員

会計掛

河田 友彦	掛長
菅野 隆道	事務職員
小野 範子	事務補佐員

情報検索室

福富 憲司	
-------	--

HOPE 担当

多久島 直美	事務補佐員
--------	-------

自己点検・評価委員会

服部 美里	事務補佐員
-------	-------

(3) 大学院生

2008 年度 生物科学専攻 (霊長類学・野生動物系)

氏名	学年	指導教員
権田 絵里	D3	濱田 穰 毛利 俊雄
山田 彩	D3	渡邊 邦夫 半谷 吾郎
鈴木 真理子	D3	半谷 吾郎 杉浦 秀樹
Zhang, Peng	D3	渡邊 邦夫 M.A.Huffman
NAHALLAGE, CHARMALIE ANURADHIE DONA (H20. 9 で修了)	D3	M.A.Huffman 渡邊 邦夫
郷 もえ	D3	古市 剛史 杉浦 秀樹
山本 真也	D3	松沢 哲郎 友永 雅己
平石 博敏	D3	正高 信男 香田 啓貴
山口 智恵子	D3	正高 信男 香田 啓貴
半田 高史	D3	三上 章允 宮地 重弘
石川 直樹	D3	三上 章允 宮地 重弘
託見 健	D3	林 基治 大石 高生
檜垣 小百合	D3	林 基治 大石 高生
田中 美希子	D3	平井 啓久 川本 芳
親川 千紗子 (H20. 5 で修了)	D3	正高 信男 林 基治
川合 静	D2	川本 芳 田中 洋之
ZIN MAUNG MAUNG THEIN	D2	高井 正成 江木 直子
神田 恵	D2	古市 剛史 杉浦 秀樹
JAMAN Mohammad Firoj	D2	M.A.Huffman 半谷 吾郎
佐藤 義明	D2	松沢 哲郎 友永 雅己
福島 美和	D2	正高 信男 香田 啓貴
三浦 優生	D2	正高 信男 香田 啓貴

平井 大地	D2	三上 章允 宮地 重弘
酒井 朋子	D2	三上 章允 宮地 重弘
原澤 牧子	D1	半谷 吾郎 杉浦 秀樹
松岡 絵里子	D1	半谷 吾郎 橋本 千絵
MACINTOSH, ANDREW JAMES JONATHAN (H20. 10 で D2)	D1	M.A.Huffman 渡邊 邦夫
小倉 匡俊	D1	松沢 哲郎 友永 雅己
澤田 玲子	D1	正高 信男 香田 啓貴
橋本 亜井	D1	正高 信男 香田 啓貴
小野 敬治	D1	三上 章允 宮地 重弘
鴻池 菜保	D1	宮地 重弘 三上 章允
齊藤 梓	M2	川本 芳 田中 洋之
伊藤 毅	M2	高井 正成 西村 剛
澤田 晶子	M2	半谷 吾郎 古市 剛史
兼子 峰明	M2	友永 雅己 松沢 哲郎
狩野 文浩	M2	友永 雅己 松沢 哲郎
MARTIN, CHRISTOPHER	M2	松沢 哲郎 友永 雅己
伊藤 祐康	M2	正高 信男 香田 啓貴
禰占 雅史	M2	宮地 重弘 脇田 真清
西岡 佑一郎	M1	高井 正成 江木 直子
山梨 裕美	M1	松沢 哲郎 友永 雅己
小林 良子	M1	正高 信男 香田 啓貴

(4) 研究支援推進員

氏名	採用期間
梅田 せつ子	2008 年 4 月 1 日～2008 年 7 月 31 日
葉栗 和枝	2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
堀内 ゆかり	2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
小林 陽子	2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
山根 若葉	2008 年 4 月 1 日～2008 年 8 月 31 日
猪飼 良子	2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
近藤 ひろ子	2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
森山 トシ子	2008 年 8 月 1 日～2009 年 1 月 7 日
尾鷲 享子	2008 年 10 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
國枝 匠	2008 年 4 月 1 日～2009 年 1 月 31 日

3. 予算概況

予算概要

(金額の単位はすべて千円)

運営費交付金	人件費	556,151
	物件費	153,557
	物件費（特別教育研究経費）	249,740
	計	959,448
外 部 資 金	受託研究費（8 件）	71,813
	受託事業費（3 件）	38,598
	文部科学省科学研究費補助金（43 件）	151,429
	グローバル COE プログラム（1 件）	37,840
	日本学術振興会先端研究拠点事業（1 件）	30,000
	日本学術振興会二国間交流事業（1 件）	425
	寄附金（7 件）	5,379
	間接経費	42,314
	全学共通経費	1,800
	計	379,598
	合 計	1,339,046

(1) 2008 年度（平成 20 年度）受託研究費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
受託研究費	景山 節	40,909	ニホンザルの飼育・繁殖・供給に関する研究
受託研究費	松沢哲郎	6,898	大型類人猿の情報整備とネットワークづくり
受託研究費	正高信男	100	言語習得の身体的基盤の認知神経科学的研究
受託研究費	大石高生	4,000	脳脊髄損傷からの機能回復における軸索構造の変化
受託研究費	宮地重弘	1,000	サルを用いた行動発達の神経機構の解析
受託研究費	松沢哲郎	11,906	大型類人猿の絶滅回避のための自然・社会環境に関する研究
受託研究費	正高信男	5,000	学習困難に対応した地域単位の学習支援ネットワークの構築
受託研究費	平井啓久	2,000	コモンマーモセットの血液キメラに関わる細胞遺伝学的研究
合 計	8 件	71,813	

※金額は、間接経費を除く

(2) 2008 年度（平成 20 年度）受託事業費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
受託研究員	中村 伸	557	サルモデルでのバイオメディカル研究
受託研究員	中村 伸	278	サルモデルでのバイオメディカル研究
受託事業費	大石高生	37,763	脳の発達・老化・疾患に関した遺伝子発現の解析と霊長類モデルの確立
合 計	3 件	38,598	

(3) 2008 年度 (平成 20 年度) 文部科学省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
特別推進研究	松沢哲郎	67,800	思考と学習の霊長類的基盤
特定領域研究	宮地重弘	1,500	記憶のメカニズムに関わる前頭前野, 側頭連合野, 海馬をつなぐ神経回路の解明
基盤研究(A)	古市剛史	5,700	環境の季節変化と地域変異に対する Pan 属の適応機構の研究
基盤研究(A)	正高信男	9,400	ヒトとニホンザルにおける認知機能の加齢変化についての実験的比較研究
基盤研究(A)	濱田 稔	7,900	アジア大陸部におけるマカクの進化地理学: 移住と多様化の解明
基盤研究(B)	三上章允	2,500	テナガザル視物質遺伝子の多様性に関する研究
基盤研究(B)	國松 豊	1,400	ユーラシアの化石ヒト上科に関する古生物学的研究
基盤研究(B)	友永雅己	4,200	表象形成の多様性、多重性、階層性 ―比較認知発達科学からのアプローチ―
基盤研究(B)	大石高生	4,700	霊長類脳の発達加齢に関する比較生理学的研究: ツバイから類人猿まで
基盤研究(B)	景山 節	3,500	霊長類の採食戦略に適応した胃内消化酵素ペプシンの分子機能とゲノム進化
基盤研究(B)	渡邊邦夫	3,800	アジア産旧世界ザルの道具使用等社会行動に関する研究とその保全
基盤研究(B)	橋本千絵	1,200	ヒト科における「妊娠しにくさ」の進化～野生チンパンジーのメスの過剰な性行動の研究
基盤研究(B)	高井正成	3,500	東ユーラシアにおける新世代後半の霊長類進化に関する古生物学的研究
基盤研究(B)	平井啓久	4,700	テナガザル類の多様性と系統生物地理学
基盤研究(C)	古賀章彦	789	メダカの転移因子の突発的転移頻度上昇の機構
基盤研究(C)	鈴木樹理	1,800	マカクを用いたガンマヘルペスウイルス関与リンパ腫モデル作出の基礎研究
基盤研究(C)	田中洋之	1,900	飼育下マカク集団の遺伝的多様性の変化と近親交配の影響に関する研究
萌芽研究	三上章允	1,500	色盲遺伝子キャリアの色覚とカテゴリー識別
萌芽研究	川本 芳	1,800	地域個体群の定義法と保全への応用―ニホンザルの保全―
萌芽研究	正高信男	1,600	言語によらない代数的思考メカニズムと発達障害についての実践的研究
萌芽研究	今井啓雄	1,300	低分子と受容体の相互作用を基盤とした霊長類フェロモン受容機構解明の試み
若手研究(B)	林 美里	900	物の操作を尺度としたヒトとチンパンジーの比較認知発達
若手研究(B)	宮部貴子	600	サル類における全静脈麻酔法に関する研究
若手研究(B)	香田啓貴	800	小型類人猿における「音楽」知覚・認知の生物学的基盤
若手研究(B)	佐藤 弥	1,700	動的表情に対する共鳴的表情応答の心的処理過程とその神経基盤
若手研究(B)	半谷吾郎	2,100	東南アジア熱帯林の霊長類の群集心理学

若手研究 (スタートアップ)	西村 剛	1,340	ヒト以外の霊長類における音声器官の運動の随意性に関する実験的研究
特別研究員奨励費	山本真也	900	チンパンジーにおける互惠的利他行動と他者理解の比較認知科学的検討
特別研究員奨励費	江成広斗	1,100	白神山地における社会-環境問題としての猿害解決を目的とした領域横断的研究
特別研究員奨励費	白井(伊村) 知子	1,100	比較認知発達の観点からみた絵画的奥行知覚：運動情報と視点の影響
特別研究員奨励費	額額大輔	1,100	皮質-視床下核投射（ハイパー直接路）が運動の制御において果たす機能の解明
特別研究員奨励費	福島美和	900	学習に困難を示す子どもの教育支援プログラムと脳機能の変化
特別研究員奨励費	親川千紗子	900	テナガザルのDNA解析による人類の家族起源に関する進化人類学的研究
特別研究員奨励費	服部裕子	700	利他性の進化-「思いやり」を支えるメカニズムに着目して-
特別研究員奨励費	足立幾磨	700	ヒト以外の動物における社会的認知能力への多角的アプローチ
特別研究員奨励費	山口智恵子	500	霊長類の発声の柔軟性：社会的状況の影響
特別研究員奨励費	小倉匡俊	500	霊長類に対する社会環境エンリッチメント手法の比較認知科学的検討
特別研究員奨励費	佐藤義明	500	霊長類の道具使用における物理的知性と社会的知性
特別研究員奨励費	三浦優生	500	健常児・自閉症児における話者の確信度の理解とその発達的变化の比較検討
特別研究員奨励費	橋本亜井	500	社会性の発達における言語コミュニケーションの役割：母子会話データベースによる検討
特別研究員奨励費	HERNANDEZ, A. D	200	屋久島におけるニホンザルと寄生虫を支える食物網の構造とエネルギー論に関する研究
特別研究員奨励費	LECA, J-B	1,100	ニホンザルの文化-石遊びに関する飼育下の実験と長期に渡る野外研究
特別研究員奨励費	RIZALDI	300	霊長類における攻撃交渉時の行動調整とスマトラ産ほ乳類 26 種の保全
合 計	43 件	151,429	

※金額は、間接経費を除く

(4) 2008 年度（平成 20 年度）研究拠点形成費等補助金《グローバル COE プログラム》内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
グローバル COE プログラム	正高信男	37,840	生物多様性と進化研究のための拠点形成
合 計	1 件	37,840	

※金額は、間接経費を除く

(5) 2008 年度（平成 20 年度）日本学術振興会先端研究拠点事業 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
先端研究拠点・国際戦略型(HOPE)	松沢哲郎	30,000	人間の進化の霊長類的起源
合 計	1 件	30,000	

※金額は、間接経費を除く

(6) 2008 年度（平成 20 年度）日本学術振興会二国間交流事業 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
ロシアとの共同研究 (RFBR)	高井正成	425	ユーラシア大陸北部における霊長類の進化に関する古生物学的研究
合 計	1 件	425	

(7) 2008 年度（平成 20 年度）寄附金 内訳一覧

補助金等種別	研究代表者	金 額	寄 附 の 目 的
西村 剛	西村 剛	440	霊長類に関する総合的研究
(財) 大幸財団	濱田 穰	218	霊長類に関する総合的研究
(財) 京都大学教育振興財団	江木直子	200	国際研究集会での発表
渡邊邦夫	渡邊邦夫	457	野生ニホンザル保全研究
樋上 忍	正高信男	2,280	発達障害の療育および研究
(財) 伊藤科学振興会	西村 剛	570	原猿類における副鼻腔形態の比較研究
長谷川寿一	松沢哲郎	1,214	霊長類に関する総合的研究
合 計	7 件	5,379	

※寄附金額は、全学共通経費（2%）を控除した金額

4. 図書

霊長類学の研究成果を網羅する方針で図書を収集しています。特に霊長類学関係論文の別刷は年間 2500 件あまりを受け入れ、『霊長類学別刷コレクション』として閲覧に供しています。書籍については全所員からの推薦を受け付け、選定の参考にしています。

(1) 蔵書数

2009 年 3 月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下の通りです。

和書：7,318 冊（製本雑誌も含む）

洋書：16,956 冊（製本雑誌も含む）

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）：84,000 点

(2) 資料の所蔵検索

図書室で所蔵している図書・雑誌はすべて【京都大学蔵書検索 KULINE】で検索できます。

【京都大学蔵書検索 KULINE】にアクセスし、[詳細検索画面] - [所蔵館] の欄で [(82)霊長研] を選択すると、霊長類研究所の蔵書のみヒットします。

詳しくは京都大学図書館機構のホームページをご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）は【霊長類学文献索引データベース】で検索できます。

霊長類研究所ホームページの topics【霊長類学文献索引データベース】をご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi>

(3) 霊長類研究所図書室利用規程

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日：9 時から 17 時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員。
- 3) 1), 2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属

図書施設の紹介のある者。

- 4) その他一般利用者。

2. 閲覧

- 1) 閲覧は所定の場所で行わなければならない。
- 2) 次の各号に掲げる場合においては閲覧を制限することができる。
 - (1) 当該資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号。以下「情報公開法」）という。第 5 条第 1 号、第 2 号及び第 4 号に掲げる情報が記録されていると認められる場合における当該情報が記録されている部分。
 - (2) 当該資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第 5 条第 2 号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合における当該期間が経過するまでの間。
 - (3) 当該資料の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は当該資料が現に使用されている場合。

III. 貸出及び返却

1. II の 1 の 1) の該当者及び、2) のうち予め利用者カードを提出した者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

- (i) 単行本は 1 か月間借用できる。
- (ii) 借用時には、ブックカード及び代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

- (i) 製本雑誌は 3 日間借用できる。
- (ii) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

- (i) 未製本の雑誌は 15 時から翌朝 10 時までの間に限り借用できる。
- (ii) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。

d. 別刷

- (i) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。
- (ii) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e. 他機関からの借用資料

- (i) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書

室内での利用に限る。

(ii) 利用後は図書係員に返却する。

2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。

3) 借用中の資料を転貸してはならない。

4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、他を優先する。

5) 借用後の図書は返却台に返却する。

2. II の 1 の 3) の該当者は、所属の図書施設を通じて借用を依頼することができる。

1) 借用資料は単行本のみで、所属図書施設内での利用に限る。

2) 借用期限は 2 週間とするが、本研究所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検及び長期貸出

1. 定期的に図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。

2. 総点検期間中、図書室を休室とすることがある。

3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は 1 年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. その他

1. 図書室資料の目録及びこの図書室利用規程については常時図書室に備え付ける。

2. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。

3. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。

4. 図書室内（書庫を含む）は禁煙とする。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

平成 16 年 4 月 1 日制定

5. サル類飼育頭数・動態

2008 年度（平成 20 年度末）飼育頭数

種 名	頭 数
コモンマーモセット	26
ワタボウシタマリン	25
ヨ ザ ル	16
リ ス ザ ル	4
フサオマキザル	9
ケナガクモザル	1
ミ ド リ ザ ル	2
ニ ホ ン ザ ル	345
ニ ホ ン ザ ル(NBR)*	223
ア カ ゲ ザ ル	222
タイワンザル	6

種 名	頭 数
ボンネットザル	9
カ ニ ク イ ザ ル	38
マ ン ト ヒ ヒ	5
アジルテナガザル	3
チ ン パ ン ジ ー	14
合 計	948

*NBR（「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト）の預託を受け飼育しているもの

2008 年度（平成 20 年度）サル類動態表

区 分 種 名	増 加		減 少 (死亡など)										
	出 産	導 入	実 験 殺	事 故 死	外 傷 死	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	感 染 症	泌 尿 器	衰 弱	そ の 他	剖 検 不 能	所 外 供 給
コモンマーモセット	9		3			1					5		
ワタボウシタマリン	4	2	2								1		2
ニホンザル	49		17	1	1	9	4		1	3	8		6
ニホンザル (NBR)	23	86						1			9		16
アカゲザル	37		19		1	1	1			1	2		
タイワンザル			1										
カニクイザル	2		8										
フサオマキザル			2										
小 計	124	88	52	1	2	11	5	1	1	4	25		24
合 計	212		126										

6. 資料

霊長類研究所が所蔵する資料は、骨格標本、液浸標本、化石模型などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。標本のほとんどはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。他機関所蔵の資料との交換も受け入れている。

(1) 霊長類骨格資料（表 1）

現在、資料委員会のデータベースに登録された霊長類骨格標本は表 1 の通りである。その数は 7,000 点を超え、大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。特にニホンザルの標本は飼育・野生由来個体を合わせて 2800 点以上を数え、世界的に見ても稀なコレクションである。その他に、新世界ザルの標本も約 1,400 点保有している。類人猿、および原猿類（+ツパイ）の標本は、それぞれ数十点ずつである。

(2) 霊長類以外の骨格標本（表 2）

霊長類以外にも、哺乳類を中心に約 1,400 点近い骨格標本を所蔵している。内訳は、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、テン、イタチ、イノシシ、シカ、カモシカなど日本産哺乳類が多い。日本産の野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。

骨格標本はすべて研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架にならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室に設置されたコンピューター上で骨格標本データベースを検索することができる。データベース上で利用できる情報は、標本番号、種番号、属名、種名、登録日、性別、体重、座高、前胴長などである。

(3) 液浸標本

本棟地下及び栗栖地区の液浸資料室に各種霊長類のフォルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が数百点保管されており、共同利用研究者などを対象に、研究・教育目的で提供されている。これらについてもデータベース化が進められている。

(4) その他

以上の他に、被毛標本数十点が保有されている。

霊長類研究所資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、上記のように研究所所蔵資料のデータベース化など利用環境の整備に努めており、毎年国内外の研究者らによって骨格標本や液浸標本が研究・教育用の資料として活用されている。標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで済むようにしているが、標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある利用の際は資料委員会への十分な事前説明が必要である。

資料委員会は新しい標本の作製、受け入れもおこなっており、毎年標本数は増加している。資料を一層充実させるため、野外調査などの際に、霊長類その他の標本の採集にご協力いただきたい。

備考：資料委員会では、霊長類研究所資料室で登録・保管する他、霊長類標本に関するデータのみの登録も受け付けています。あるいは、標本管理者の移籍・退職などによって管理困難となった標本の取り扱いについても相談を受けます。霊長類研究所資料委員会までご連絡ください。

（平成 21 年度連絡先：西村剛 nishimur@pri.kyoto-u.ac.jp）。

（文責：國松豊）

2008 年度（平成 20 年度）所蔵骨格資料

表 1 霊長類骨格資料

和名	学名	標本数
ホミノイド	Hominoidea	84
テナガザル属	<i>Hylobates</i> spp.	53
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	25
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	5
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	1
旧世界ザル	Cercopithecoidea	6100
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	4404
ラングール属	<i>Presbytis</i> spp.	176
コロブス属	<i>Colobus</i> spp.	362
コバナテングザル属	<i>Simias concolor</i>	132
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	568
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	18
マンガベイ属	<i>Cercocebus</i> spp.	16
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	406
マンドリル属	<i>Mandrillus</i> spp.	18
新世界ザル	Ceboidea	1423
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	985
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	57
ティティ属	<i>Callicebus</i> spp.	49
ホエザル属	<i>Alouatta</i> spp.	49
クモザル属	<i>Ateles</i> spp.	8
ウーリークモザル属	<i>Brachyteles</i> spp.	3
ウーリーモンキー属	<i>Lagothrix</i> spp.	16
オマキザル属	<i>Cebus</i> spp.	84
サキ属	<i>Pithecia</i> spp.	13
ウアカリ属	<i>Cacajao calvus</i>	1
ゲルディモンキー属	<i>Callimico goeldi</i>	1
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaeus</i>	6
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	59
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	86
ライオンタマリン属	<i>Leontopithecus rosalia</i>	6
原猿類およびツパイ類	Prosimii & Tupaia	67
ツパイ属	<i>Tupaia</i> spp.	43
オオツパイ属	<i>Lyonogale</i> spp.	1
キツネザル属	<i>Lemur</i> spp.	6
エリマキキツネザル属	<i>Varecia</i> spp.	2
スローロリス属	<i>Nycticebus</i> spp.	7
ポットー属	<i>Perodicticus</i> spp.	1
ガラゴ属	<i>Galago</i> spp.	6
メガネザル属	<i>Tarsius</i> spp.	1
総計	Total	7674

表 2 その他の骨格資料

和名	学名	標本数
食肉目	Carnivora	912
イヌ科	Canidae	552
ネコ科	Felidae	23
クマ科	Ursidae	132
アライグマ科	Procyonidae	5
イタチ科	Mustelidae	180
ジャコウネコ科	Viverridae	20
奇蹄目	Perissodactyla	8
ウマ科	Equidae	6
バク科	Tapiridae	2
偶蹄目	Artiodactyla	349
ウシ科	Bovidae	50
シカ科	Cervidae	38
イノシシ科	Suidae	257
ペッカリー科	Tayassuidae	3
不明	indet.	1
齧歯目	Rodentia	68
ネズミ科	Muridae	22
リス科	Sciuridae	33
テンジクネズミ科	Caviidae	3
ヌートリア科	Myocastoridae	1
ヤマアラシ科	Hystricidae	1
オマキヤマアラシ科	Erethizontidae	1
カピバラ科	Hydrochoeridae	1
パカ科	Agoutidae	2
不明	indet.	4
ウサギ目	Lagomorpha	10
ウサギ科	Leporidae	9
ナキウサギ科	Ochotonidae	1
食虫目	Insectivora	1
モグラ科	Talpidae	1
有袋目	Marsupialia	6
オポッサム科	Didelphidae	2
ウォンバット科	Vombatidae	1
カンガルー科	Macropodidae	2
クスクス科	Phalangeridae	1
貧歯目	Edentata	2
フタユビナマケモノ科	Megalonychidae	2
長鼻目	Proboscidea	1
クジラ目	Cetacea	9
マイルカ科	Delphinidae	9
鰭脚目	Pinnipedia	16
アシカ科	Otariidae	14
哺乳類・計	Mammalia total	1382
爬虫類	Reptilia	4
魚類	Pisces	1
総計	Total	1387

7. 人事異動

所属分野等	職名	異動		内容	備考
		氏名	年月日		
系統発生	助教	江木直子	2008/4/1	採用	財団法人日本モンキーセンターリサーチフェローより
思考言語	所長	松沢哲郎	2008/4/1	併任	任期は 2010/3/31 まで
認知学習	准教授	松井智子	2008/4/1	育児休業	期間は 2009/3/31 まで
※比較認知	寄附研究部門准教授	佐藤弥	2008/4/1	雇用更新	任期は 2009/3/31 まで
※比較認知	寄附研究部門助教	林美里	2008/4/1	雇用更新	任期は 2009/3/31 まで
※センター	技術職員	前田典彦	2008/4/1	昇任	センター技術専門職員に昇任
※センター	副所長	景山節	2008/4/1	併任	任期は 2009/3/31 まで
認知学習	助教	香田啓貴	2008/7/1	任期の更新	任期は 2015/6/30 まで
集団遺伝	教授	古賀章彦	2008/10/1	採用	名古屋大学大学院理学研究科准教授より
形態進化	教授	濱田穰	2008/12/1	昇任	形態進化分野准教授より
思考言語	助教	林美里	2008/12/1	採用	比較認知発達研究部門寄附研究部門助教より
思考言語	特定助教（特別推進研究）	足立幾磨	2009/1/1	採用	思考言語分野特別研究員より
社会進化	助教	辻大和	2009/2/1	採用	センター研究員（研究機関）より
認知学習	技術職員	南雲純治	2009/3/31	定年退職	2009/4/1 付国際共同先端研究センター再雇用
行動発現	教授	三上章允	2009/3/31	定年退職	
器官調節	教授	林基治	2009/3/31	定年退職	

※ センター: 附属人類進化モデル研究センター

※ 比較認知: 比較認知発達（ベネッセコーポレーション）研究部門

8. 海外渡航

(1) 教員

所属	氏名	期間	目的国	目的
思考言語	松沢哲郎	2008/5/3～5/11	アメリカ合衆国	講演・資料収集, 第3回「心の研究の10年の展望」: 心の発生シンポジウム参加・発表
生態保全	半谷吾郎	2008/5/5～5/11	マレーシア	野外調査
社会進化	M.A.Huffman	2008/5/7～5/12	台湾	研究連絡, 講演
形態進化	國松豊	2008/5/14～5/22	イラン・イスラム共和国	化石発掘調査・研究打ち合わせ
系統発生	高井正成	2008/5/16～5/25	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー南部科学センター所蔵の哺乳類化石の観察・同定と計測
形態進化	濱田穰	2008/5/18～5/30	タイ王国・ミャンマー連邦	研究打ち合わせ, マカクの分布・生息実態調査
系統発生	高井正成	2008/5/26～5/29	中華人民共和国	人字洞発見10周年記念シンポジウム参加・発表・資料収集
遺伝子情報	中村伸	2008/5/30～6/6	オーストラリア	第15回国際血管生物学会参加・資料収集, 研究打ち合わせ
形態進化	濱田穰	2008/5/31～6/16	タイ王国・ベトナム社会主義共和国・インド・ラオス人民民主共和国	研究打ち合わせ, マカクの分布・生息実態調査
遺伝子情報	平井啓久	2008/6/10～6/15	英国	Schistosoma Genome Project のまとめ会議出席
生態保全	橋本千絵	2008/6/12～7/11	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査
生態保全	半谷吾郎	2008/6/14～6/22	マレーシア	野外調査

生態保全	渡邊邦夫	2008/6/17～6/28	インドネシア共和国	スラウェシマカクの野外調査
思考言語	松沢哲郎	2008/6/19～6/24	台湾	国際意識科学研究学会第12回国際シンポジウム参加・講演・資料収集
認知学習	正高信男	2008/7/2～7/9	ドイツ連邦共和国	ワークショップ参加・発表及び資料収集
行動発現	脇田真清	2008/7/12～7/18	オランダ王国	第6回ヨーロッパ神経科学フォーラム出席・研究成果発表及び資料収集
思考言語	松沢哲郎	2008/7/12～7/25	ケニア共和国・ドイツ連邦共和国	化石調査, 第29回国際心理学会会議参加・講演・資料収集
生態保全	半谷吾郎	2008/7/16～7/23	マレーシア	野外調査
遺伝子情報	平井啓久	2008/7/17～7/19	大韓民国	釜山大学生物学講座特別セミナー講演
社会進化	M.A.Huffman	2008/7/23～7/29	カナダ	研究打ち合わせ・セミナー発表
比較認知	林美里	2008/7/31～8/12	英国・フィンランド共和国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
形態進化	濱田穰	2008/8/1～8/18	英国・ドイツ連邦共和国・タイ王国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 研究連絡, 講演
行動発現	三上章允	2008/8/2～8/10	英国	第22回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究連絡
生態保全	橋本千絵	2008/8/2～8/12	英国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 研究連絡
思考言語	松沢哲郎	2008/8/2～8/10	英国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
形態進化	國松豊	2008/8/2～9/25	ケニア共和国	化石発掘調査・研究打ち合わせ
社会進化	古市剛史	2008/8/2～9/26	英国・ウガンダ共和国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 森林保全会議出席, 野外調査
集団遺伝	川本芳	2008/8/2～8/30	バングラデシュ人民共和国・ブータン王国	アカゲザル調査・研究打ち合わせ
センター	宮部貴子	2008/8/2～8/16	英国	第22回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究連絡
思考言語	友永雅己	2008/8/3～8/10	英国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
認知学習	香田啓貴	2008/8/8～9/19	インドネシア共和国	野外調査・研究連絡・資料収集
社会進化	M.A.Huffman	2008/8/14～8/29	インドネシア共和国	研究連絡・野外調査
生態保全	渡邊邦夫	2008/8/16～9/8	インドネシア共和国	研究連絡・野外調査
センター	宮部貴子	2008/8/18～9/5	インドネシア共和国	第3回AZWMC参加及びテナガザルの調査
センター	鈴木樹理	2008/8/18～8/24	インドネシア共和国	第3回AZWMC参加・資料収集
遺伝子情報	平井啓久	2008/8/21～9/5	インドネシア共和国	テナガザル類の遺伝的試料収集と共同研究打ち合わせ
系統発生	西村剛	2008/8/24～9/21	ドイツ連邦共和国・フランス共和国	化石のCT撮像・資料収集
系統発生	高井正成	2008/8/26～9/1	ドイツ連邦共和国	歯の形態学国際シンポジウム参加・発表・資料収集
行動発現	三上章允	2008/9/1～9/9	インドネシア共和国	行動実験・研究連絡
形態進化	濱田穰	2008/9/4～10/7	タイ王国・ラオス人民共和国・カンボジア王国・ベトナム社会主義共和国	霊長類の分布・生息実態調査・資料収集, 研究打ち合わせ
集団遺伝	川本芳	2008/9/9～9/19	ペルー共和国	研究連絡
生態保全	半谷吾郎	2008/9/18～9/25	マレーシア	野外調査
思考言語	松沢哲郎	2008/9/18～9/27	アメリカ合衆国	講演・資料収集
遺伝子情報	中村伸	2008/9/27～9/30	中華人民共和国	第3回アジア実験動物学会出席・発表
社会進化	M.A.Huffman	2008/10/1～10/20	イタリア共和国	第1回イタリア動物園研究学会大会参加・発表, 研究連絡, セミナー
生態保全	半谷吾郎	2008/10/9～10/18	マレーシア	野外調査
思考言語	松沢哲郎	2008/10/12～10/22	フランス共和国・英国	講演, 研究連絡, 資料収集

系統発生	江木直子	2008/10/14～10/20	アメリカ合衆国	第 68 回古脊椎動物学会年会参加・発表
生態保全	渡邊邦夫	2008/10/16～10/25	インドネシア	スラウェシマカクの野外調査
遺伝子情報	郷康広	2008/11/5～11/17	アメリカ合衆国	研究打ち合わせ
器官調節	大石高生	2008/11/14～11/21	アメリカ合衆国	第 38 回北米神経科学大会出席・発表・資料収集
行動発現	三上章允	2008/11/14～11/22	アメリカ合衆国	第 38 回北米神経科学大会出席・資料収集、研究連絡
行動発現	宮地重弘	2008/11/14～11/21	アメリカ合衆国	第 38 回北米神経科学大会出席・資料収集、研究連絡
形態進化	濱田穰	2008/11/14～12/6	タイ王国・ラオス人民民主共和国	研究打ち合わせ、霊長類分布と生息実態調査
系統発生	高井正成	2008/11/15～12/2	中華人民共和国	化石発掘調査・標本観察
生態保全	半谷吾郎	2008/11/17～11/26	マレーシア	野外調査
生態保全	渡邊邦夫	2008/11/18～11/28	中華人民共和国	野外調査、研究打ち合わせ
社会進化	古市剛史	2008/11/21～12/6	コンゴ民主共和国	ボノボの生態学的研究に関する研究連絡と調査協約についての会議
生態保全	橋本千絵	2008/12/1～2009/2/13	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査
遺伝子情報	平井啓久	2008/12/11～12/19	インドネシア共和国	研究打ち合わせ・試料収集
認知学習	香田啓貴	2008/12/11～12/24	マレーシア	野外調査・研究連絡、情報収集
センター	宮部貴子	2008/12/11～12/19	マレーシア	研究連絡・テナガザルの試料収集
思考言語	松沢哲郎	2008/12/14～2009/1/6	ギニア共和国	野生チンパンジーの生態調査
生態保全	半谷吾郎	2008/12/17～12/26	マレーシア	野外調査
社会進化	M.A.Huffman	2008/12/23～2009/1/8	アメリカ合衆国	学会大会参加発表・研究連絡
社会進化	古市剛史	2008/12/24～2009/1/8	ウガンダ共和国	チンパンジーの生態学的調査
形態進化	國松豊	2009/1/10～1/25	英国	化石標本調査
形態進化	濱田穰	2009/1/15～1/26	ミャンマー連邦・タイ王国・ラオス人民民主共和国	霊長類の分布・生息実態調査、ワークショップ参加
センター	鈴木樹理	2009/2/1～2/15	アメリカ合衆国	現場視察、研究打ち合わせ、資料収集
形態進化	國松豊	2009/2/7～3/8	ケニア共和国	化石標本調査
集団遺伝	古賀章彦	2009/2/3～2/12	アメリカ合衆国	第 2 回転移因子のゲノムへの影響に関する国際会議参加・発表・資料収集
系統発生	江木直子	2009/2/4～3/9	ミャンマー連邦	発掘調査・標本観察
生態保全	渡邊邦夫	2009/2/11～3/6	インドネシア共和国・タイ王国	ATBC 国際シンポジウム参加、野外調査
思考言語	松沢哲郎	2009/2/11～2/16	アメリカ合衆国	AAAS Annual Meeting 参加・講演・資料収集
認知学習	香田啓貴	2009/2/11～3/9	マレーシア・タイ王国	野外調査、研究連絡、情報収集
系統発生	高井正成	2009/2/12～3/5	ミャンマー連邦	発掘調査
形態進化	濱田穰	2009/2/15～2/25	タイ王国・バングラデシュ人民共和国	研究打ち合わせ、霊長類分布・生息実態調査
認知学習	正高信男	2009/2/16～2/21	タイ王国	野生老齢ザルの調査、資料・情報収集
社会進化	M.A.Huffman	2009/2/17～3/23	スリランカ民主社会主義共和国・インド	野生霊長類分布調査、研究連絡、セミナー
思考言語	松沢哲郎	2009/2/26～3/3	イタリア共和国	日欧先端科学セミナー参加・講演・資料収集
思考言語	足立幾磨	2009/2/26～3/5	イタリア共和国	日欧先端科学セミナー参加・発表・資料収集
集団遺伝	川本芳	2009/2/28～3/19	ブータン王国・ネパール連邦民主共和国	野外調査、研究連絡
系統発生	西村剛	2009/3/17～3/21	中華人民共和国	化石標本調査の観察と CT 撮像
遺伝子情報	平井啓久	2009/3/17～3/26	タイ王国・インドネシア共和国	テナガザルの調査・実験、研究打ち合わせ

系統発生	高井正成	2009/3/17～3/21	中華人民共和国	化石標本調査の観察と CT 撮像
センター	宮部貴子	2009/3/22～3/26	インドネシア共和国	テナガザル由来サンプルの分析

(2) 大学院生

所属	氏名	期間	目的国	目的
社会進化	Jaman, Mohammad Firoj	2008/5/8～6/29	バングラデシュ人民共和国	都会及び農村周辺に住む野生ザルの観察・研究連絡
思考言語	山梨裕美	2008/5/27～6/2	アメリカ合衆国	施設見学・資料収集, 国際シンポジウム参加
思考言語	Martin Christopher	2008/6/15～7/9	アメリカ合衆国	アメリカ霊長類学会出席・発表・資料収集
社会進化	Andrew Macintosh	2008/6/16～6/24	アメリカ合衆国	ASP カンファレンス 2008 参加・発表・資料収集
行動発現	酒井朋子	2008/6/21～6/28	オーストラリア	脳 MRI 画像解析の研修・資料収集
認知学習	三浦優生	2008/7/24～8/2	英国	幼児言語学会第 11 回国際大会出席・発表及び資料収集, 研究打ち合わせ
生態保全	張鵬	2008/7/29～8/12	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究打ち合わせ, 施設見学
思考言語	山梨裕美	2008/7/29～8/19	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究打ち合わせ, 施設見学
思考言語	山本真也	2008/7/31～8/14	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究打ち合わせ, 施設見学
思考言語	小倉匡俊	2008/8/2～8/19	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・資料収集, 研究打ち合わせ, 施設見学
思考言語	兼子峰明	2008/8/2～8/10	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・資料収集
思考言語	Martin Christopher	2008/8/2～8/12	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
生態保全	鈴木真理子	2008/8/2～8/11	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 施設見学
行動発現	酒井朋子	2008/8/2～8/10	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
思考言語	狩野文浩	2008/8/3～8/10	英国	第 22 回国際霊長類学会出席・発表・資料収集
社会進化	C.A.D.Nahallage	2008/8/14～8/29	インドネシア共和国	研究連絡, カニクイザル生態観察・調査
系統発生	西岡佑一郎	2008/11/13～12/2	中華人民共和国	化石発掘調査, 標本観察
行動発現	石川直樹	2008/11/14～11/22	アメリカ合衆国	第 38 回北米神経科学大会出席・発表・研究連絡
行動発現	鴻池菜保	2008/11/14～11/21	アメリカ合衆国	第 38 回北米神経科学大会出席・発表・研究連絡
社会進化	Jaman, Mohammad Firoj	2008/12/3～2009/1/24	バングラデシュ人民共和国	都会及び農村周辺に住む野生ザルの観察・研究連絡
集団遺伝	川合静	2009/1/20～1/27	タイ王国・ラオス人民民主共和国	ワークショップ参加, 霊長類の分布と生息実態調査
系統発生	西岡佑一郎	2009/2/4～3/5	ミャンマー連邦	発掘調査
系統発生	Zin Maung Maung Thein	2009/2/4～3/20	ミャンマー連邦	発掘調査, 標本観察
思考言語	山本真也	2009/2/26～3/5	イタリア共和国	日欧先端科学セミナー参加・発表・資料収集
思考言語	兼子峰明	2009/3/17～3/26	アメリカ合衆国	第 16 回国際比較認知科学会議参加・発表・資料収集, 研究連絡
認知学習	澤田玲子	2009/3/20～3/26	アメリカ合衆国	学会参加・発表・資料収集

(3) 教務補佐員

所属	氏名	期間	目的国	目的
思考言語	大橋岳	2008/7/26～9/14	ギニア共和国	植林活動, 野生チンパンジーの調査
思考言語	井上紗奈	2008/7/31～8/14	英国・ベルギー王国・ドイツ連邦共和国	第22回国際霊長類学会参加・発表・資料収集
生態保全	松原幹	2008/8/2～8/30	英国	第22回国際霊長類学会参加・発表・資料収集, 施設見学
生態保全	村井勅裕	2008/8/14～9/15	インドネシア共和国	研究調査・資料収集
思考言語	大橋岳	2009/2/1～3/3	ギニア共和国	植林活動, 野生チンパンジーの調査
系統発生	荻野慎太郎	2009/2/12～3/13	ミャンマー連邦	発掘調査・標本観察
生態保全	村井勅裕	2009/2/17～4/6	中華人民共和国	研究打ち合わせ・資料収集, 野外調査

(4) 非常勤研究員

所属	氏名	期間	目的国	目的
センター	辻大和	2008/8/2～8/13	英国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 研究連絡
遺伝子情報	松井淳	2008/10/17～10/28	マダガスカル共和国	キツネザル類のサンプリング
行動発現	井上雅仁	2008/11/14～11/22	アメリカ合衆国	第38回北米神経科学大会出席・発表・研究連絡
センター	辻大和	2008/11/21～2009/1/12	コンゴ民主共和国	ニホンザルとの比較研究のためのボノボの調査, 研究連絡
認知学習	早川祥子	2009/3/5～3/26	アメリカ合衆国	テナガザルの行動調査・資料収集

(5) 学振特別研究員 (PD)

所属	氏名	期間	目的国	目的
思考言語	服部裕子	2008/6/17～6/24	スイス	国際シンポジウム出席・発表・資料収集, 施設見学・研究連絡
思考言語	服部裕子	2008/8/2～8/13	英国	第22回国際霊長類学会出席・発表・資料収集, 施設見学・研究連絡
認知学習	親川千紗子	2008/8/8～9/30	インドネシア共和国	研究連絡・野外調査
思考言語	伊村知子	2008/8/23～8/28	オランダ	ヨーロッパ視覚学会参加・発表・資料収集
思考言語	服部裕子	2009/2/26～3/5	イタリア共和国	日欧先端科学セミナー参加・発表・資料収集
認知学習	親川千紗子	2009/2/28～3/17	インドネシア共和国	研究連絡・野外調査

(6) 外国人共同研究者

所属	氏名	期間	目的国	目的
社会進化	Alexander Hernandez	2008/7/28～8/12	フランス共和国・英国	第22回国際霊長類学会参加・資料収集, 施設見学, 研究打ち合わせ
社会進化	Leca Jean Baptiste	2008/8/2～8/10	英国	第22回国際霊長類学会参加・発表・資料収集
社会進化	Leca Jean Baptiste	2008/8/14～8/29	インドネシア共和国	カニクイザル生態観察・調査

9. 非常勤講師

(理) 巖佐庸 (九州大学理学研究院生物科学部門教授)
「数理生物学」

2008 年 10 月 27 日～10 月 28 日

(理) 竹本浩典 ((独) 情報通信研究機構専門研究員)
「音声生成概論」

2008 年 11 月 27 日～11 月 28 日

(理) 下條信輔 (カリフォルニア工科大学生物学部教授)
「知覚・情動・意志決定」

2008 年 12 月 2 日～12 月 3 日

(霊) 渡邊正孝 ((財) 東京都医学研究機構東京都神経
科学総合研究所特任研究員)

「前頭連合野の認知・動機づけ機能」

2009 年 1 月 22 日～1 月 23 日

(理) : 理学研究科 梓 (霊) : 霊長類研究所 梓

10. リサーチ・アシスタント (R・A)

(氏名 : 採用期間)

川合 静 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

神田 恵 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

鴻池 菜保 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

酒井 朋子 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

澤田 玲子 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

平井 大地 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

松岡絵里子 : 2008 年 5 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

グローバル COE

石川 直樹 : 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

小野 敬治 : 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

鈴木真理子 : 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

檜垣小百合 : 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

原澤 牧子 : 2008 年 4 月 1 日～2008 年 12 月 31 日

半田 高史 : 2008 年 8 月 1 日～2009 年 1 月 23 日

平石 博敏 : 2008 年 8 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

11. ティーチング・アシスタント (T・A)

(氏名 : 採用期間)

霊長類学・野生動物系科目に係るもの

兼子 峰明 : 2008 年 6 月 1 日～2009 年 2 月 28 日

齊藤 梓 : 2008 年 6 月 1 日～2009 年 2 月 28 日

澤田 晶子 : 2008 年 6 月 1 日～2009 年 2 月 28 日

張 鵬 : 2008 年 6 月 1 日～2009 年 2 月 28 日

全学共通科目に係るもの

伊藤 毅 : 2008 年 6 月 1 日～2008 年 7 月 31 日

山梨 裕美 : 2008 年 6 月 1 日～2008 年 7 月 31 日

小林 良子 : 2008 年 8 月 1 日～2008 年 8 月 31 日

西岡佑一郎 : 2008 年 8 月 1 日～2008 年 8 月 31 日

12. 年間スケジュール

2008 年

4 月 3-4 日 オープンキャンパス

4 月 4 日 新入生オリエンテーション

4 月 24 日 新入所員歓迎会

5 月 18 日 共同利用研究会
「第 9 回ニホンザル研究セミナー」

5 月 31 日 京都公開講座 (京大時計台記念館)

6 月 18 日 本学創立記念日

7 月 30-31 日 大学院修士課程入学試験

8 月 18-20 日 全学共通科目「霊長類学の現在」

8 月 21-22 日 犬山公開講座

9 月 13 日 東京公開講座 (日本科学未来館)

9 月 29 日 運営委員会

10 月 9 日 サル慰霊祭

10 月 26 日 市民公開

12 月 11-12 日 メンタルヘルス講演会及び健康相談

12 月 19-20 日 共同利用研究会「第 4 回比較社会認知
シンポジウム」

2009 年

1 月 7 日 新年挨拶会

1 月 9 日 博士論文発表会

1 月 26 日 修士論文発表会

2 月 7-8 日 共同利用研究会「東南アジア熱帯林の
霊長類の野外研究」

2 月 28 日 共同利用研究会「霊長類モデルでの
バイオメディカル研究-2009」

3 月 5-7 日 共同利用研究会「個体レベル比較生物
学をめざして」

3 月 7 日 林 基治先生・三上章允先生最終講義

3 月 9 日 運営委員会

3 月 14-15 日 ホミニゼーション研究会「ヒトの起
源 : 共通祖先の形と暮らしを探る」